

---

# 永久に・・・

華咲舞

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

永久に・・・

### 【Nコード】

N44980

### 【作者名】

華咲舞

### 【あらすじ】

彼女を助ける為に不死の薬を飲んでしまい・・・

？ 幸せな時間

いつもと変わらない日々 でも隣には真智が居たから俺は幸せだった  
「ねえねえ！ 劉雅？聞いてる？」

真智が俺に話しかけていた

「ん？ ああ、うん 聞いてるよ よかったね」

真智が笑顔で話していたから嬉しいような話をしていたのだろうと  
思い俺はそう応えた

でも 実際は聞いてなかった

「もう！ 劉雅！聞いてなかったでしょ！？ 会話になってないも  
ん！」

少しムツとしている真智 返事をミスしたようだ

「ああ・・・ うん 悪かった・・・」

俺はとりあえず真智に謝る

「あははw 仕方ないなあ 今回は許してあげるよ

でもね さっきの劉雅の返答は正しかったんだよ？ 聞いてなかつ  
たこと自分ではらしたんだよw」

と真智は言う、 騙された まあ聞いてなかったのは俺だが・・・

今度は俺が少しかだけ怒ったふりをしてみた

「わ 怒っちゃった？」

少しだけ困った様になっている真智

「うん 怒ってるよwww」

騙してみようと思ったけど、笑ってしまった

「ふう ビックリしたw もー」

今度はまた真智が少しムツとしている

その顔を見て思わず俺は「ははは」と笑ってしまった

「あははははw」

真智も笑っていた

くだらない様な会話をしているだけだけど 俺はこの時間がとても  
好きで楽しく  
こんな日々がずっと続くと思っていた

？ 人間の死

「なあ 真智、俺本屋に行きたいんだけど 行かないか？」

俺は今日発売する小説があることを思い出し、真智に問いかけた

「んー・・・ いいよ 私も買いたい雑誌あるし」

真智が了解してくれたので 俺達は本屋に行くことにした

30分後

「良かったね 買いたい本があって」

真智が嬉しそうに話しかけてくる

「ああ 真智も買いたい雑誌あつて良かったな」

「うん」と真智が嬉しそうに言う

「この後どこに行く？」

真智が俺に問いかけているが、

だが 先ほどから嫌な予感がする男が俺達を見ているのでそっちが  
気になる

「劉雅？」

真智が心配そうに俺を覗き込む

「え？ あ、ああ 大丈夫だよ ごめんな」

別にその男が何をするわけでもなさそうだし真智に心配かけてはな  
らないと思ひ俺はそう応えた

「なーんだ 何かあつたのかと思つて心配しちゃつたじゃん！」

ごめん と応えようとしたその時だった、

その男が俺達に近づいてきた 手に何かを持っている

「真智！ 危ない！ 逃げろ！」

それを言つた途端 男がこちらにナイフを向け走つてきた

「え？ 何？何！？」

真智が驚いていた、だけど俺は驚いてる真智の背中を押す

「早く！！ 逃げてくれ！！」

俺は必死に叫ぶ

真智は、男の存在に気付く

「ねえ！ 駄目だよ！ 劉雅も一緒に行かないと！」

多分 ここで俺まで走って逃げてしまったら

この男は追い掛けて来てしまうだろう 俺が時間を稼げば真智だけでも逃げれるはずだ

「駄目だ、 真智、 先に逃げろ」

それでも真智は逃げようとしな

すると 男がこつちにナイフを向け走って来た

周りの人は逃げ出していく でも真智は逃げてくれない

「ねえ！ 劉雅！ 早く逃げようよお！！！！」

「真智だけ逃げて 俺は平気だから、 な？」

男は目の前まで来ている

「真智！」

叫んだと同時に、男が俺にナイフを振りかざしてくる

「劉雅！！！！」

真智が叫ぶ

「大丈夫 安心しろ」

顔に傷が出来ただけでなんとか、避けられた

でも、男はまたナイフを振りかざす

俺は男の腹を思いつきを蹴りあげる

「がっ」

男は少し呻いた だがすぐに体制を立て直してしまう

もう1度俺にナイフを振りかざす

「っ！ 痛・・・」

・・・避けられなかった 俺の左肩の方から生暖かい液体が溢れてくる

「劉雅！！！！？」

真智が半泣きで叫んでいる

「真智 お願いだ・・・ 逃げてくれ」  
真智がやっとな俺の心を察して逃げて行く  
男は俺を殺した後、真智を殺しに行くだろう だから俺は死ねない  
相手は刃物を持っているがなんとかなるだろう  
すると 男が急にナイフを振り回してきて  
俺の右胸にナイフが刺さり紅いものが溢れ 瞼は抉れて  
首から血が噴き出した  
俺は 何とかなると思っていた  
だが 俺は何も持っていなかったのだ  
・・・俺は勝てる訳がなかった

意識が薄れてくなかで男が真智の向かった方向へと走って行くのを見た

「真・・・智・・・ ごめ・・・ん 守れな・・・かった・・・」  
不意にそんな言葉が出た

「お前はここで死んでいいのか？」  
とても綺麗な白衣を着た女の人が話しかけてくる  
「駄・・・目だ・・・ まだ、 真智が遠く・・・に逃げられてない」  
ほとんど無意識に言う  
「そうか ならこれをやろう これは不死の薬だ 永久に死ねなくなるが・・・飲むか？」  
俺は頷く  
返事をするときの中黒の液体が流れ込んできた

目の前が一瞬真っ赤に染まる  
だが、痛みもあるし 特に変わった気はしない でも何故か涙が溢

れてくる

俺は・・・ 人間 としては死んだのだ。

でも 構わない

これで 真智を助けに行ける・・・  
いや、 俺を殺した男を殺しに行ける。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4498o/>

---

永久に・・・

2010年10月30日15時20分発行